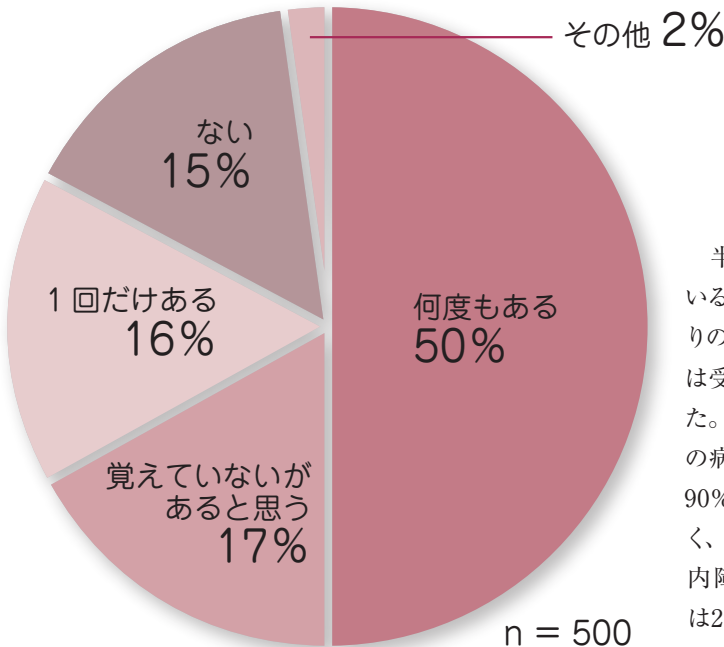


## Q. 通院する医療機関で、糖尿病網膜症の予防管理や定期的な検査について指導を受けたことはありますか？

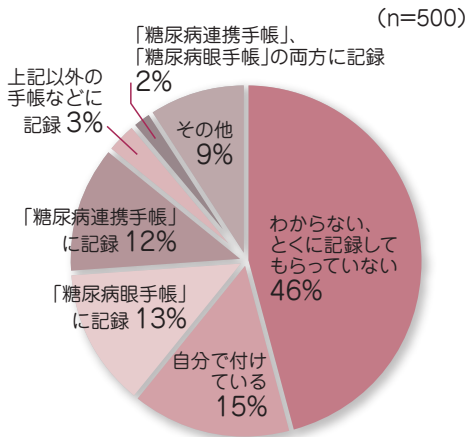


半数は「何度も受けている」としてありますが、残りの半数は定期的な指導は受けていないようでした。糖尿病と関係する眼の病気として「網膜症」は90%と最も知名度が高く、「白内障」は47%、「緑内障」は40%、「黄斑症」は29%。また、その予防のためには血糖コントロールをよく保ち、定期的な検査が大切であることを93%がご存知でした。

手帳」を43%が「知っている、聞いたことがある」とし、「持っている」方は31%、「糖尿病連携手帳」は、39%が「知っている」とし、「持っている」方は37%と、認知度は医療スタッフの半分程度でした。

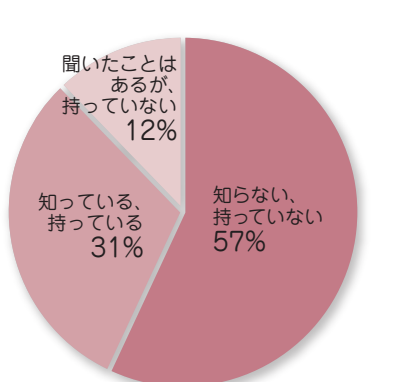
自由記述では、「検査は半年に1回は必ず受けているが手帳のことは知らなかった」、「眼科と内科が別の病院なので、検査結果を双方に提供することが患者の役割になっている」、「糖尿病を知るきっかけが眼底出血。突然視力がなくなり、約1カ月間、出血が引くまで不安だった」、「知人が網膜症で失明。自分になったらと思うと恐ろしい」、「予防のために眼科受診を勧めるだけでなく、糖尿病と眼の病気についてもっと啓発してほしい」など、たくさんの声が寄せられました。

## Q. 眼科で検査を受けた際、検査記録をつけてもらっていますか？

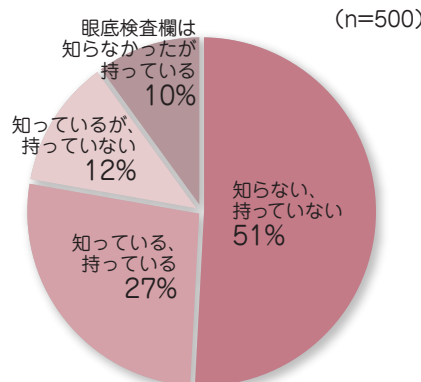


実際の眼科受診については、「3~6カ月に1回」の頻度が最も多く44%、次に「年に1回」が27%、15%は「定期的には受けていない」とのこと。眼科での検査記録については、「わからない、とくに記録してもらっていない」が46%と最も多く、「自分で付けている」が15%、「糖尿病眼手帳に記録」が13%、「糖尿病連携手帳に記録」が12%と続きました。医療スタッフと同様、記録手帳について聞いてみたところ、「糖尿病眼

## Q. 「糖尿病眼手帳」をご存知ですか？お持ちですか？



## Q. 「糖尿病連携手帳」の眼底検査欄をご存知ですか？手帳をお持ちですか？



### ●コメンテーター●

**鈴木吉彦** (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

内科医が無散瞳カメラで撮影し、眼底出血があるかないかをその場で患者さんに示すことができれば、治療へのモチベーションを高めるのに絶好の機会となります。ですから、眼科医へ依頼する前に、まず内科医が眼底を判読するべき能力を得ておくべきでしょう。特に急激に血糖コントロールが成功してHbA1cが下がってきている場合、頻回に眼底写真を撮影して出血が起こらないかをチェックしておくことはとても重要です。眼科医に最終判定を依頼する必要がありますが、その前に内科医自身が眼底写真のある程度読影できれば、こうした問題も解決は早いはずで。